



鎮魂の桜

雄勝・登米の地産玄昌石を用いた屋根

被害の大きかった東日本各地を指し示し、桜を映し出すステンレス説明板

(仮称) 東北・森の祈念堂

所在地：宮城県石巻市皿貝寺入山2番3 観音寺裏山 鎮魂の桜の森内

建築主：(社)てあわせ 理事 後藤泰彦

設計監理：建築設計事務所 小石川建築 / 小石川土木 石川典貴 小引寛也

監修：東京大学生産技術研究所 准教授 川添善行

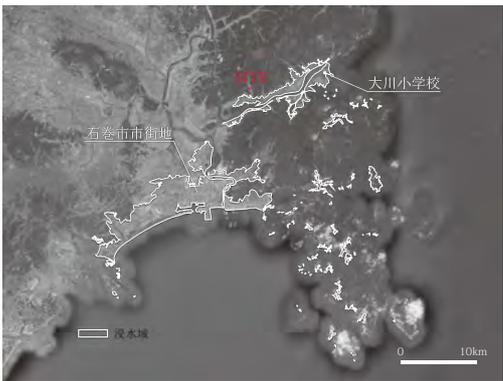
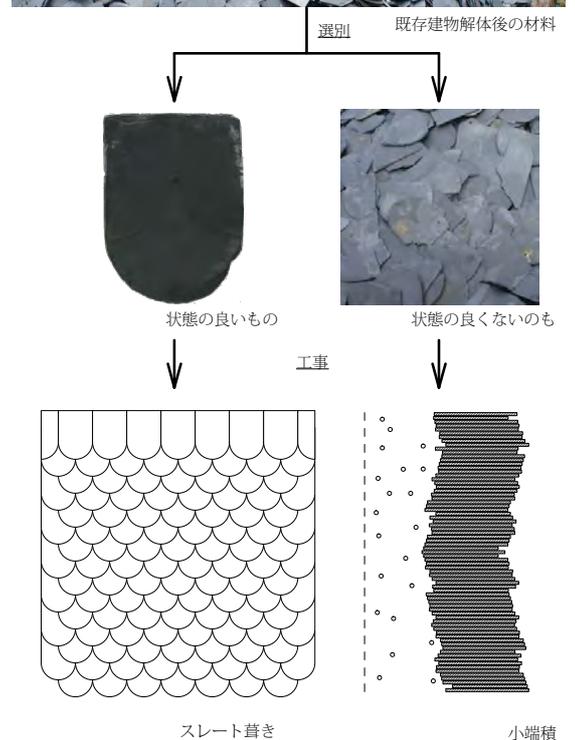
里の風景を望む祈念堂イメージ

(仮称) 東北・森の祈念堂 概要

石巻山腹の森の中に震災死者・行方不明者1万8千人の祈念の場所をつくるという計画である。広範囲に渡る震災であったため、一人一人に対して、また、東日本全域に対してという2つの祈念をこの場所で実現しようとした。計画地は未整備な場所のため重機を入れられないこと、復興事業の影響からコンクリートや型枠工事を減らしたいとのことから、人手で運搬や施工が可能な小単位の材料での構成を考えた。

石巻は日本でも有数の石の産地であり、登米・雄勝玄昌石や稲井石と呼ばれる特色ある材料が手に入る。しかし現在玄昌石の採掘は再開しておらず入手が困難であったため、この地域の建物屋根・壁解体時に出る材料を集め再利用することとした。解体した玄昌石の状態は様々で、有効に使うため垂直面は小端積、水平面は屋根葺の工法を採用した。廃棄する建材を再度生かす行為は、過去から未来への希望を見出すことのできる最適な方法と思える。

また、基礎や小屋組には低吸水性で曲げに強い特性を持った稲井石とした。この場所を訪れる人々が甚大な被害を受けた方角を指し示すように設置されたこの場所に立ち、自然と祈りの方角へ手を合わせるように考えている。そして一人一人の祈念、そして東日本全域への祈念とその事実を遠い後世に残すという想いと意志を積層した石空間に託している。



石巻市広域地図



完成イメージ2

スレート葺き

小端積